

第二の人生で輝きを増す、 人生の達人たち

退職後の第二の人生について考えたとき、「何かにチャレンジしたい」と思うことはありますか？すぐには思いつかない方も多いと思います。本特集では6月号の第一弾に続き、イキイキとセカンドライフを楽しむ人生の達人たちに話を聞いてきました。何かにチャレンジしようと思ったきっかけや長続きの秘訣、仲間作りの楽しさなどの醍醐味をご紹介します。ぜひ、参考にしてみてください。

ボウリングやソフトバーに大忙し

●國本和克さん(62歳)



「マイボールは難しいですね」と笑う園本さん

当初は5～6人だったメンバーが、家族や友人を中心に増えて今では25人程度までになったそうです。「嬉しかったのは私の誕生日に子供たちが家族だけのチームを作って試合に出てくれたことです。勝つためだけではなくて健康づくりや楽しむのが目的ですからね」と目を細める。他にもゴルフや園芸、パソコンなどもたしなむ園本さん。「仕事をしていた頃よりも忙しいかも知れませんね」と笑う。熊本さわやか長寿財団の「さわやか大学校」にも通っており、「これからは社会貢献活動にも力を入れていきたいですね」を目を輝かせて話してくれました。



チーム名「カリブランカ」で
くま経プレス杯ボウリング大会も優勝しています



ソフトパレード本会で公演していの団体さん

セカンドライフ関連ワード

「2007年問題」
定年を60歳とした場合、団塊の世代の退職者がもっとも多くなる年が2007年とされるため生まれた言葉。労働人口が大きく変化するほか、個人消費や新卒雇用などが活性化するとも言われており、この動きは2010年代まで続くと予想されています。

標本(日本)の上に施された複数種の鉛筆記入と上部の鉛筆記入

- 大学の募集人員が入学希望者総数を上回る大学全入時代が始まることで、都市部で新築ビルが相次いで完成し、数多くのオフィスが供給されるようになると、IT関連の業界などで技術革新を支えてきたベテラン技術者が減少することによる、さまざまなトラブルが起こると予想されること

「回憶の世代」

新屋太 氏が作った言葉で、人口比率でも大きな割合を占めている世代のことです。第二次世界大戦直後の1947(昭和22)年から49(昭24)年までの第一次ベビーブームで生まれた人たちのことを指します。解説によれば51(昭26)年や56(昭31)生まれまで含む場合もあり、人口は880万人程だと言われています。

ミシンを使った手作り教室を開催

みしん工房熊本店



プラザーやシンガー、ジャノメなど全メーカーを最新機種まで常時100台以上を展示販売している水前寺4丁目のみしん工房㈱本店。同店ではミシンの楽しさを知ってもらうために手作り教室を開催しています。

毎回優しく丁寧な指導が参加者から大好評の手作り教室。みなさんの要望にこたえて月2回から3回になりました。11月は16日と25日と27日に開催します。今回はミシンを使って「和柄のポーチ」を製作します。時間は午前10時から。定員は6~8人(要予約)。参加費は材料費込みで1500円となっています。店内にはキッズルームも完備しているので子様連れでも安心ですよ。作品はもちろん、友達作りにも最適です。ぜひ、気軽に参加して手作りにチャレンジしてみてみてください。

•(0120)65-8434



来て見て縫ってみて下さい

店内には常時100台以上の最新型ミシンを展示しています。

修理のことはサービスセンター
■ 0120-46-0105

